

第6回 四国圏広域地方計画有識者懇談会 議事要旨

1. 日時：令和6年7月3日（水）15:00-17:00

2. 場所：WEB 会議

3. 出席委員

那須委員、入江委員、加藤委員、香西委員、近藤委員、坂本委員、隅田委員、
淡野委員、豊田委員、中橋委員、芳我委員、町田委員、山崎委員

4. 議事

1) 有識者懇談会規約改定

2) 当面のスケジュール

3) 新たな四国圏広域地方計画 中間とりまとめ（案）の策定に向けて

（1）議事要旨

事務局より議事等の説明後、地方圏へのUターン行動を促す／妨げる要因と幸福度についての研究事例の紹介があり、多角的な視点が共有された。

また、リニア中央新幹線の開業等により三大都市圏を結ぶ「日本中央回廊」の形成により四国への影響と効果や四国の地域再生や地域生活圏の事例と展開について意見を頂いた。

- ・日本中央回廊が形成されてもその先の空間的距離から直ちに四国全域に波及効果が及ぶとは考えにくい、例えば観光の分野では、オーバーツーリズムを緩和する人を分散させる大きな動線として期待できるのではないか。
- ・日本中央回廊や新幹線による人流・物流の変化、陸上交通と飛行機の分担や四国の産業にどういう影響を与えるのかについての社会的な議論が不十分では無いか。大都市から遠い事が不利というわけではなく、四国だから成長する企業、中小企業が多い。交通分担ですごく敏感に反応できる産業の特徴についても議論する必要があるのでは無いか。
- ・四国の地域再生や地域生活圏のあり方も、振興地や新技術の関わった地域の交通とも密接に関わってくる。日本中央回廊のような大きな話と地域交通の話、生活や働くことと地域生活圏の話は切り離せない。切り離せないところを議論すべきである。

- ・観光では移動時間も楽しみの一つであるので、海のルートの充実やサイクルツーリズムの推進やその魅力発信が重要。
- ・課題先進地域である四国は新技術を取り入れた交通導入に適しているのでは無いか。
- ・観光以外の移動時間であっても、四国ならではの面白みの要素があるとより。
- ・高速交通による時間短縮は、物流面では良い効果がある。一方、地域内の移動が車無しではかなり不便である。地域ならではのものを活用できる移動手段や新しいアイデアによって、大きな移動と地域内の小さな移動の両方を改善する必要がある。
- ・技術の進展により物理的な移動の必要性が減少しているものもある。新たな仕組みの構築が必要で、考え方の転換が求められる。四国には多くの優秀な企業があるが、製造業が中心。産業全体がソフト化している中で、第三次産業を重視する方向に誘導することが長期的に良い。交通を含めたインフラも付加価値重視型、ソフト型に転換すべきであり、一次・二次産業に偏らない判断が必要ではないか
- ・地域生活圏について、四国ではそれぞれに自立した生活圏の発想が重要で、地域ごとの役割分担や個性を活かすことが必要。例えば坂出・丸亀などは、平成の大合併の道を選ばなかった地域であり、エリアの中で役割分担、個性の掛け合わせでの育成を考えていくという発想になる。
- ・幸福度は地域毎に異なるので、四県の幸福度を広域的に見ていく必要がある。
- ・地方部の子育て支援には改善の余地があり、若い女性の声を反映させることが重要。
- ・男木島、沖縄コザの関係人口創出に関する事例を紹介。地域再生にはコミュニティマネージャーの役割が重要。
- ・調査結果によると人間関係が幸福度に直結すると言われている。人口が増えることと幸福度は必ずしも一致しない。よい人間関係を作っていくコミュニティ作りという視点が必要。
- ・（幸福度には）災害大国日本で安心して暮らせる土台がなければならない。防災というテーマは世代を超えて自分事として捉えやすい。リニアをつくるのも大事だが、国土を強化していくことにも力を入れていただきたい。
- ・DX推進にはX人材の育成が必要。コミュニティマネージャー、ゼネラリスト的な統合人材の育成が重要で、四国内の大学・大学院での育成課程が始まったところ。